

皆さん、動物園に遊びに来た時に「なぜ?」「どうして?」と思ったことはありませんか?

「教えて! 飼育員さん!」は、来園者の皆さんからの疑問に飼育員がお答えする企画です。

それでは早速、質問にお答えしましょう。

今回の質問はこちら。

ペンネーム: T.H さん からの質問

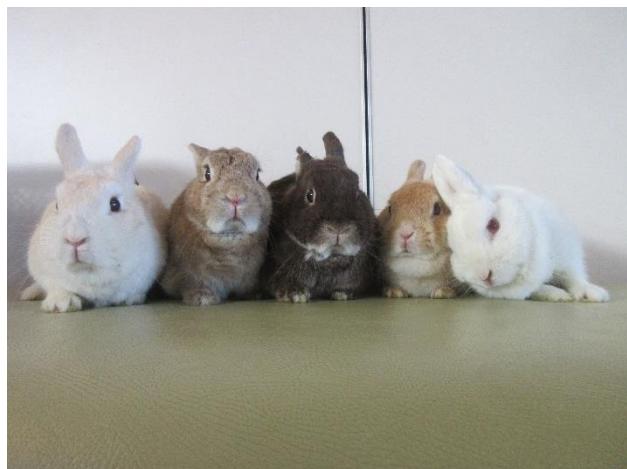
飼育員さんは、動物の赤ちゃんが生まれた時は
どんなことに気を付けていますか?

ご質問、ありがとうございます。

動物園では毎年、色々な動物の赤ちゃんが生まれます。今回はウサギを例に、動物の繁殖の時に、飼育員が気を付けていることについて解説をしていきます。

ウサギのお母さんが妊娠していることがわかると、飼育員は出産の準備を始めます。ウサギの妊娠期間は約1ヶ月。お腹があまり大きくならない動物なので、オスとメスを同居させた日を基準に出産予定日を計算します。お母さんウサギがしっかりと栄養をとれるようにエサの種類や量を調整するほか、安心できる空間を作るため、お部屋は草を敷き詰めて巣箱を入れ、薄暗くします。出産予定日の前後は、お母さんウサギとなるべく刺激しないよう、お部屋の掃除も中止し、エサと水の交換など最低限のお世話だけを行います。そして、そのわずかな時間で、お母さんウサギや部屋の様子を注意深く観察します。飼育員が子ウサギを初め

て見るのは、出産後1~2週間が経ち、子ウサギが自分で巣箱から出てくる時です。



他の動物が繁殖する際も、飼育員はお母さんが安心して子育てができる環境を作ることを第一に考えます。また、赤ちゃんが生まれた後は、お母さんが赤ちゃんを守るために神経質になっていることが多いので、必要以上に親子に近づかないように気を付けながらも、親子の様子をしっかりと観察しています。テレビなどで動物の赤ちゃんにミルクをあげて育てる飼育員の映像を見ることがあると思うが、それは、お母さんや赤ちゃんに何らかの異常が発生し、安全に子育てを続けられない場合の最後の手段です。人に育てられることで将来的に他の個体との同居が難しくなったり、種特有の社会性が失われたりする可能性があるため、人工保育には慎重な判断が必要です。

動物の赤ちゃんが生まれた後はもちろん、生まれる前から飼育員は色々なことに気を配って飼育を行います。動物の赤ちゃんを見つけたら、一生懸命子育てをしているお母さんはもちろん、それを陰で支える飼育員も応援してもらえると嬉しいです。